

「補給の重要性」

はじめに

清掃の現場では、施工中のスタッフが現場に集中できるように、後方支援としての補給を整えておくことが非常に大切な要素となっています。

軍隊用語で兵站（へいたん、ロジスティクス）と呼ばれるもので、「ロジスティクス」は経済活動においても使われています。今回は現場における補給に関するお話をします。

第19回

株式会社 フォンシュレーダー・ジャパン 代表取締役社長
岡本 英男

現場必勝セミナー

補給とは

現場での施工を遂行するために、施工の準備の大切さを以前の稿でお伝えしました。今回取り上げる補給とは、実際に現場に入り、施工が始まった段階から施工が無事終了するまで、施工を担当するスタッフが、施工を中断することなく安心して進めていけるようサポートする後方支援を意味します。

補給とは、現場で足らなくなったもの、欠損したものを、必要なものを文字通り補い、供給することです。小さな現場ではそこまで考えなくても何とかかなるかもしれませんが、大規模な施工現場を大人数で日数をかけて行うような場合は、準備もさることながら、施工中の補給が非常に大切なこととなってきます。

も、燃料や砲弾がなければただの鉄の塊です。

また、ネット通販が盛んな現代の販売活動の現場では、注文した商品が期日・時間通りに、指定された場所に無事に配達されること

が当たり前ですが、そのために、商品管理から配送に至るまでのロジスティクスの正確さが、販売管理の重要なポイントとなっています。

同様に、清掃の現場で成功を収めるためにも、補給を考慮しておく必要があります。ここではいくつかのポイントに絞って説明します。

補給の目的と内容

補給を考えるにあたり、その目的とすることをまず押さえておく必要があります。そもそも何のための補給かといえは、それは施工が無事成功するように、過不足なく必要な内容を補充することです。では必要な内容とは何でしょうか。これを剣道の世界で古くから使われてきた言葉で考えてみます。

育がなされます。戦う剣士の気と剣と体が一致しているときには、どのような相手に対しても自然と必要な技が繰り出され、打ち勝つことができるという教えです。

これを施工の現場に置き換えてみますと、「気」とはスタッフの施工に対する気持ち、気合い、気力でしよう

か。「剣」とは武器となる道具、資機材でしょう。「体」とは現場での体力であり、どのようなスタッフを何名準備するかというマ

ンパワーのことです。後方支援として、これらに対する的確な補給がなされていけば、どのような現場でも成功に導くことができるのではないのでしょうか。

補給のポイント

では実際の現場で、押さえておくべき補給のポイントを挙げてみたいと思います。

(1) 補給基地を作る

現場に入ったらず資機材の搬入となり、準備の段階で必要なスタッフを確保していると思いますが「現場は生き物」と言われるように、施工中にはさまざまなことが起こります。例えば、熱中症などで体調不良のスタッフが、不用意にけがをしてしまい途中退場ということもありません。そうでなくとも施工の進捗状況によって、スタッフの増援が必要になるという状況が出てくる場合もあります。

りあえずその機械に代替してもらい、その間に修理するということが考えられます。ケミカル類につきましても、汚れの激しい現場では消耗が多くなるものが出てきます。

洗剤の残量を気にしながら、節約して施工するというのは、精神衛生上よいものではありません。

戦場で「弾がないので無駄撃ちするな」ということを、命令するのと同じように、状況をよく観察し、必要なケミカルを十分に補充しておくことがスタッフの安心につながり、思い切り施工に励んでもらえることとなります。

搬入、搬出の時だけでも助太刀に入ってもらえるだけで、現場がスムーズに進んでいく場合があります。

そういう意味からも、現場の責任者は冷静に状況を把握しながら、後方支援を躊躇することなく、スタッフの増援を手配する必要があります。

(3) 資機材の補給

現場においては、機械の不調、不具合が生じることもありません。そういう場合、簡単に修理ができれば問題解決は早いので、補給基地に修理ができる工具、パーツ類などを準備しておくことが望ましいです。もっとも予備の機械があれば、と

成功に導くよう全体の士気を高めていく必要があります。どうしてもばスタッフの気持ちが一つになり、気力を振り絞ってもらえるかというのを、よく考える必要があります。

気持ちの高ぶった責任者がスタッフに怒りをぶつけ、暴言を吐いてしまおうというのは、まったくの逆効果でいいことはありません。「こうなってほしい」「ああやってほしい」と言いたいことは山ほどあるのはわかるのですが、感情的になるのは抑えるようにしましょう。

過酷な現場を連続して施工しているような場合、責任者もスタッフも疲労のピークを迎えることがあります。しかもそのようなときに限って予期せぬ事件が起こったりします。そこで感情的なぶつかり合いが起こるといへんなことになり、スタッフの「やる気」が失せてしまいます。

そういう場合は、スポーツの団体競技などで、試合中に監督やコーチがタイムを要請するように、責任者は思い切って休憩時間を取り、冷たい飲み物

現場での施工を成功に導くために、後方支援としての補給ということについてポイントを取り上げて説明してみました。

まとめ

現場であれ大規模であれ、施工を無事に終わらせるための参考としてお役立ていただければ幸いです。



【岡本英男氏経歴】
■岡山県岡山市出身
■中央大学理工学部卒
■(公社)全国ハウスクリーニング協会理事
■建築物環境衛生管理技術者